

第2回生物多様性部会 議事要旨

日 時：平成29年9月29日（金）10時～12時15分
場 所：大阪市環境局 第2会議室
議 題：「（仮称）大阪市生物多様性戦略〔中間報告（案）〕」について
出 席 者：（委員）花田部会長、上甫木委員、佐々木委員（専門委員）、平井委員（専門委員）、深町委員（専門委員）、宮川委員（専門委員）
（事務局等）北辻環境局長、青野理事兼エネルギー政策室長、堀井環境施策部長、岡本環境施策課長 他

配付資料：次第

- 資料1 （仮称）大阪市生物多様性戦略策定に関する審議状況について（中間報告）（案）
- 別添1 第1回生物多様性部会 会議要旨
- 別添2 （仮称）大阪市生物多様性戦略〔中間報告（案）〕骨子
- 別添3 （仮称）大阪市生物多様性戦略〔中間報告（案）〕
- 資料2 第1回生物多様性部会 委員意見
- 資料3 スケジュール

【事務局説明】

- ・資料1及び別添1により、環境審議会への中間報告内容について。
- ・別添2及び別添3により（仮称）大阪市生物多様性戦略〔中間報告（案）〕の内容について。
- ・資料3により今後のスケジュールについて。

【別添3「（仮称）大阪市生物多様性戦略〔中間報告（案）〕」に関する意見】

1. 表紙デザイン・タイトル・サブタイトル
 - (ア)タイトル、サブタイトルについては案のとおりとする。
 - (イ)動植物の写真を表紙に載せていただきたい。
 - (ウ)サブタイトルのとおり、賑やかな表紙にしてほしい。第4章の文化に関する記載にある写真で構わないので、生物多様性とのつながりがわかるように写真を活用してほしい。
 - (エ)写真について、マスコミに取り上げられるときに何を掲出してもらいたいかを考えて選ぶと良い。引用してほしい表現、写真で何をとり上げてほしいのか、といった視点である。その意味で、取り上げて欲しい推進体制図のような重要なところはイラストを外部に委託して分かりやすい絵にするなど、ターゲットを絞り、限られた予算をうまく活用してほしい。

(カ)写真を含めたデザインの検討を再度願います。

2. 「第1章 大阪市生物多様性戦略の策定にあたって」

(1) 全体構成の記載

(ア)第1章には、どの章に何が書いてあるのか、なぜこの章にこの内容を書いたのかといった全体の構成を記載すべき。

(イ)書くのであれば、全体の構成がわかる内容を、最初のほうに記載してはどうか。

(2) 「1. 生物多様性の保全に関する国内外の動向」

(ア)大阪市はヒートアイランド現象の中心のような都市。生き物は間違いなく地球温暖化の影響を受ける。そのため、大阪市は適応策としてこのような取組みをする、またそれは自治体だけではできないので市民等の参画が必要であるという書き方をすると、今策定する戦略の内容としては時宜に即したものになると思う。

(イ)SDGs は様々な主体が関与することがキーワード。市民や民間企業にも参加してほしいという戦略の趣旨にもあってくると思う。コラムに記載しているが、言葉の紹介だけで終わっているため、もう少し本質を見ていただくと良い。

(ウ)SDGs があって戦略を今策定するという流れの書き方にすると、今策定する意義が明確になると思う。

(3) 「3. 大阪市生物多様性戦略の計画期間」

(ア)戦略の継続について、「はじめに」に追記いただいた「今後は、この戦略策定を第一歩として」という文章で伝わるだろうか。計画期間の2020年以降も継続して取り組むとの記載がどこかにあるだろうか。

(イ)3年後と2050年の間が抜けている。3年後に計画期間がおわった後、どうするのか。

(ウ)第1章3の計画期間のところで、次の見直しのサイクル等を示すべき。

(エ)時代の変化が著しく、数十年先まではっきりわからない場合もある。そのため、2030年まで5年おきに見直す等の記載も可能ではないか。実際にそのようにしている企業もある。

(4) 「4. 大阪市生物多様性戦略の目標」

(ア)2020年度までの3つの目標について、生物多様性に重要なことは、知ってもらい、感じてもらい、行動してもらおうこと。3つめの数値目標だが、市政モニターの800人の認知度を50%以上にするという目標は妥当だろうか。生物多様性そのものを評価できないか。

(イ)絶滅種を出さないようにするという目標は考えられる。

(ウ)分譲住宅では初年度から3年、4年でどれぐらい生物種がどれぐらい増えたかを調

べている。

- (エ)評価方法がないと言っている今、目標設定しても達成できない。評価指標や、チェックする体制を3年間で集中的に作るという成果の目標であれば次につながると思う。
- (オ)生態系そのものの数値評価は確かに正論だと思うが、環境省のようなかなり大きな組織にとっても容易ではないので、大阪市でできるのか少々疑問である。
- (カ)地方自治体は国と異なり、やるべきことが限られている、エリアが限られている、農地がない等の条件の縛りがあるからこそできる仕組みがあるのではないかと思う。
- (キ)市民や民間企業が参加して生物多様性について情報を共有するような仕組みを3年間で確立し、バラバラな情報を収集し共有していければ戦略の意味があると思う。
- (ク)生物多様性そのものを数字で評価するのは難しいと思うが、これまで蓄積された膨大なデータがあるので、それを評価する体制にしたほうが良いと思う。どのような変遷になっているのかを提示していただいて、次どうするかを考えるほうが前向きだと思う。
- (ケ)膨大なデータがあるのに、それを置き去りにして小学校での生き物調査といった新しい環境教育を実施するのは少し懸念が残る。
- (コ)膨大なデータを所有する自然史博物館や環境科学研究センター等を活かす仕組みが見えてこない。推進体制図等に記載しているとおっしゃると思うが、第4章の関連施設や民間事業者、環境NPO/NGOの他に市民が書かれていない。大学等も含めてそれを活かす仕組みを目標に入れてほしい。
- (ク)一般的に3年間でやろうとしている施策を検証する必要がある。PDCAサイクルを回すことをしっかり書かないといけないし、プラットフォームにおいて、どのような仕組みで検討していくのかを書き込む必要がある。例えば、第6章に、このような部会、もしくはより広範囲の人を交えた協議会等で、3年間戦略について協議していく必要がある。それを踏まえて次回の戦略において具体的な目標を掲げることになると思う。今回は施策を知ってもらう段階なので、個人的には、認知度については妥当な目標だと考えている。
- (シ)環境マネジメントシステムは、仕組みをつくることであり、その後の目標は自由。仕組みをつくるのが戦略の大きな柱だと思う。
- (ス)生物種をベースに生物多様性の豊かさを見るという目標や評価軸の立て方になっていると思う。それが基本だと思うが、2050年の姿として「生物多様性の恵みを感じるまち」という趣旨を考えると、豊かな生態系があっても人間と距離があると生物多様性の恵みは感じられない。そうならないためには、アンケートの取り方も工夫が必要だと感じる。例えば、意味を知っているかだけでなく、最近自然に行ったか、自然の豊かさを感じたか等、自然との関わり方を聞くことで、生物多様性の恵みを感じているかどうかを図ることができる。生物多様性の意味を知っているかという1つの質問だけに目的の進捗を集約するのではなく、他の質問も加えて総合的に評価す

ることは難しくないので次回から質問項目を増やせばいい。

- (セ) 市政モニターアンケートに質問項目を追加することは可能か。市域の中で自然に関心を持っているか、自然に触れているかというような質問を次回から 2 問ほど増やしてもらいたい。
- (リ) 市政モニターアンケートの質問項目を増やして数値目標をはかってもらうことと、市内の施設や大学等を活かす仕組みについて加えていただければと思う。
- (ル) 土地利用の変遷や緑化の現況のデータはわかりやすいと思う。緑地の確保と緑化の推進を目標に入れられないか。
- (レ) 消費の部分等を強調する方向性は良いと思う。さらに市民に共感してもらえるように、「生物多様性の恵みたっぷりええまち大阪」のような受け取る側がわかりやすい目標の書き方にしたらいいと思う。また、愛知目標の 20 のうち、大阪市がどれに特化するのかを目標に入れるのも 1 つの方法だと思う。また、2020 年までに企業等の取組みを表彰するような仕組みを大阪市として持ってもらえると好循環につながると思う。
- (ロ) 「恵みを感じるまち」という言い方に大都市大阪市を感じない。生物多様性の恵みは大阪市以外でも感じられる。大阪市でというのが肝なのだが、それが感じられないのが残念。
- (リ) サブタイトルのキーワードが戦略全体に浸透する必要があると思うが、それが目標や施策に反映されていない。
- (ル) 本戦略の個性を出すためにも、大消費地樽大阪として、「消費」という観点から生物多様性を考えるのは非常にわかりやすい。一例として、一般の方に生物多様性をわかりやすく伝えるとすると、食の世界。「食べることは命の移し替え」と言っている人もいる。食べることは命の連鎖であり、大消費地である大阪市でも、お米を作る田んぼにはカエルがいて、その後ろには虫がいてという背景がわかれば生物多様性を実感できる。
- (レ) 2050 年の目標は環境審議会では案のとおりとするが、部会で意見があったことを申し添えることとする。

3. 「第 3 章 大阪市の生物多様性の状況」

- (ア) 別添 2 (骨子) と別添 3 (本体) との構成が異なっている。骨子にある第 3 章の「市内の貴重な自然」や「新たな生息・生育空間」は、重要な内容のため、骨子に合わせたい。
- (イ) 緑化の現況のグラフは変化を示したいのであれば折れ線グラフにするべきではないか。加えて単位の記載をお願いします。

4. 「第 4 章 私たちの暮らしと生物多様性の関わり」

(7)第4章の構成について、個別バラバラの記載になっている。暮らしと生物がどのようにつながっているかという点で、1.(4)をもっと充実させてほしい。2の関連施設については、各施設がどのような役割と目的があり、生物多様性と関連しているのかという記載がほしい。3についても箇条書きのような表ではなく、文章で記載すべき。また、水道記念館は大事な施設であり、第3者から見れば名前も触れないのは不自然であるため、記載して議論すべきではないか。

5. 「第5章 目的達成に向けた取組み」

(7)希少種の保全についての話が前半に出てこない。一般の方に希少な動植物を認知してもらうために前半に記載すべき。生物多様性ホットスポットは希少種の多くいる場所を選定しているので、その前に希少種の記載があるべき。どのような植物がどこにいてという丁寧な情報を写真とともに入れていただきたい。

(イ)コラム14のヒアリについて、写真が様々なメディアで取り上げられるためか、非常に大きいアリと勘違いされている。縮尺を入れる等、対応をお願いする。

(ウ)生態系ネットワークの話が少ない。この戦略に記載するのか緑の基本計画の話とするのか悩ましいところだが、生態系ネットワークについて具体的に書けるところは書くべき。緑の質・量とあるが、どのような生き物がいるかといった生物種について触れるべきではないか。

(エ)グリーンインフラは都市の防災が重要。緑があるだけでなく地下の土壌や水系とのつながり等が重要であると思う。グリーンインフラの概念を取り入れることで施策にどう反映できるかを強調していただくと良い。

(オ)東京では2020年のオリンピックに関する施設・都市計画について、オリンピックが終了した後も将来の人たちに残せる有形・無形の価値を「レガシー」として長期の視点での都市のあり方を考えている。

(カ)大阪市の企業緑地がどうあるべきかについて触れたほうが大阪市らしい持続可能性を示せると思う。

(キ)大阪府が緑化施設を表彰している中に大阪市内の施設もあるので、身近な施設を載せたほうが良い。

(ク)なにわ伝統野菜がたくさん取り上げられているが、コラムは1つでいいのではないか。

6. 「第6章 大阪市生物多様性戦略の推進に向けて」

(7)なにわECOスクエアを拠点にするとしているが、現在どのように活用しているのか。以前から活用すると言っているがそのようには思えない。生き生き地球館と水道記念館が実質なくなったことは非常に残念。このような状況の中、小さな施設を活かすことができるのか。可能であるならすでにできていると思う。どうやって活用する

つもりなのか。

- (イ)「誰もが心豊かで快適に過ごすことができる都市環境を実現」とあるが、第1章の目標との整合性はあるのか。インバウンドが重要であり、案の5角形に追加して6角形にしてもいいのではないか。また、プラットフォームで協議会等の仕組みを位置付けておくべきではないか。
- (ウ)図のうち、左下の吹き出し部分について、中ポツ1つ目を「市内で暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人」としてインバウンドと国内旅行者をまとめてはどうか。

7. その他

- (ア)全体を通して写真が荒い。
- (イ)ホームページで公開している議事要旨について、あまりにまとまったものとなっているため、より詳細なものをお願いします。

【資料3 「スケジュール」に関する意見】

1. 自然史フェスティバルにおけるシンポジウム

- (ア)開催の目的は様々な活動されている方の意見をオープンに聞きたいため、そのような場を設けてほしいと前回の部会で提案した。パネルディスカッションは、フロアにいる市民の方から意見を聞くのか。
- (イ)パネリストに市民活動団体の方をいれてもいいのではないかと思う。本部会に市民活動団体の方に出席いただいている。もう少し検討いただければと思う。